

【都市基盤・交通】人と環境に配慮した質の高い基盤をつくる

基本構想における記述

- ユニバーサルデザインの考え方に基づいた都市基盤整備を進めるとともに、秩序ある土地利用を図ります。
- 地域の均衡ある発展のため、既成市街地の再生に取り組み、都市機能の集積・再配置を図るとともに、良好な市街地の形成を進めます。また、公園や街路樹など市街地の緑を創出し、潤いのある都市空間の形成を図ります。
- 広域交通の骨格となる道路整備を促進するとともに、市内各地区の連携を図る幹線道路の体系的な整備を進め、円滑な都市活動を確保します。また、安全で快適な生活道路や歩行者空間の整備を進めます。
- 鉄道やバスなどの公共交通網の充実による利便性の向上、自転車利用の促進など、交通需要に応じた総合交通体系の確立を図ります。また、より環境への負荷が少ない新しい公共交通システムの導入に取り組みます。
- 高度情報化に対応した情報通信基盤の整備を促進し、これらを活用できるよう環境の整備を図ります。

現行基本計画に基づく主な取組**1 良好な市街地の整備**

- ・ まちづくり広報誌「korekara」の発行や読者モニター制度の導入
- ・ まちづくり専門家派遣やまちづくり支援補助金の交付
- ・ 市街地再開発事業の推進（浦和駅西口南第四地区など、6地区において事業完了）
- ・ 土地区画整理事業の推進（北部拠点宮原地区など、9地区において事業完了）
- ・ 「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」の策定（平成22年度）
- ・ 浦和駅周辺鉄道高架化事業の完了（平成24年度）
- ・ 地区計画制度の普及・啓発（40地区→60地区）

2 総合交通体系の確立

- ・ 「さいたま市都市交通戦略」の策定（平成22年度）
- ・ 西大宮駅の開業（平成21年度）
- ・ 北区（平成17年度）及び岩槻区（平成18年度）にコミュニティバスを導入（4路線から6路線に拡充）
- ・ 岩槻区和土地区に乗合タクシーを導入（平成24年度）
- ・ 大宮駅、七里駅、加茂宮駅等におけるエレベーターの整備

3 市街地内の緑の空間づくり

- ・ 建築物緑化推進制度を創設（平成19年度）、建築物緑化助成事業を実施（平成20年度～）
- ・ 緑化重点地区内の「先導地区」を設定（平成18年度）
- ・ 歩いて行ける身近な公園の整備（平成17年度末766公園→平成23年度末894公園）

4 高度情報化社会に対応した基盤の整備

- ・ さいたまコールセンターの開設（平成19年度）
- ・ 市立小・中・特別支援学校に校内LANの整備（0校→全校）
- ・ 電子文書管理システム（平成17年度）、電子入札（平成19年度）、行政情報検索システム（平成19年度）の導入

<主なデータ（参考）>

都市計画道路の整備率 38.2%（平成13年度末）⇒ 46.3%（平成23年度末）

都市公園の人口一人当たりの面積 4.28 m²（平成13年4月1日）⇒ 5.10 m²（平成24年度末）

鉄道乗降者数 1,592,122人／日（平成13年度）⇒ 1,749,322人／日（平成23年度）

市内路線バス利用者数 131,792人／日（平成13年度）⇒ 142,532人／日（平成23年度）

都市基盤・交通分野の主な課題**1 市街地整備**

- ・ 将来的な人口構造の変化や各地区の特性やニーズを踏まえた、市街地の質的な改善に向けた取組が引き続き必要
- ・ 都市機能の集約化を図るとともに、地域特性を踏まえながら、にぎわいや交流を有する魅力的な都市空間の形成に取り組むことが必要
- ・ 大宮駅周辺は、慢性的な渋滞の発生や基盤整備の遅れなどの問題解消に向けた取組が必要

2 市街地内の緑

- ・ 歩いていける範囲に、誰もが安心して利用できる身近な公園が不足している市街地における公園整備が必要
- ・ 緑の保全・整備や緑化を推進するため、市民や事業者による主体的な取組への支援を強化することが必要

3 道路・交通

- ・ 過度な自動車利用から公共交通や自転車・歩行への利用転換を図るための交通施策を推進することが必要
- ・ 鉄道、道路の交通混雑やバスの定時性、速達性などの課題解決を図るため、交通網の強化や利便性の向上を促進することが必要
- ・ 必要な道路整備を着実に進めるため、都市計画道路の定期的な見直しを行いながら、財政規模と連動した計画・整備が必要

4 I C T 基盤

- ・ ネットワークのセキュリティなどに関する市民の知識向上と、デジタル・デバイドの縮小に向けた取組を推進することが必要

施策展開（案）**1 低炭素で質の高い生活環境を提供する市街地の形成**

- （1）市街地の質の向上
- （2）市街地内の緑の空間づくり
- （3）生活道路の整備
- （4）自転車利用環境の向上
- （5）I C Tを活用した利便性の向上

2 にぎわいや交流を創出する魅力的な都心・副都心の形成

- （1）都市基盤整備の推進
- （2）多様で高次な都市機能の集積
- （3）都心・副都心における機能分担のある相互連携

3 暮らしや交流、活力を支える交通体系の構築

- （1）公共交通ネットワークの充実
- （2）幹線道路ネットワークの充実
- （3）交通施策の戦略的推進